

HITOKOMART

No.6

篠原ユキオ

東京五輪の開会式で国立競技場の夜空に地球を描いたパフォーマンスはとても印象的だったが、ドローンは今やその機能もサイズも飛躍的な進化を続けて、低コストで誰にでも扱える高性能の兵器になる可能性も見せつけた。

昭和30年代の横山光輝先生の人気漫画『鉄人28号』のテレビ主題歌に「あ～る時は正義の味方 あ～る時は悪魔の手先～♪」と、科学の進歩はそれを操る者次第ということを小さな子供たちにも教えてくれたが、人類の思考を離れて AIが物事の最終判断を決定する時代が始まっている事を考えると、その先には映画

『ターミネーター』に描かれる恐怖の世界があるのかもしれない、リアルに考えてしまう。

1948年 東大阪市生まれ
京都教育大美術科卒
京都精華大学名誉教授
(公社) 日本漫画家協会参与
FECO JAPAN 会長



秘密基地

F-30号

招きメス猫

相変わらず世の中にはネコ好きが多い。犬のように愛想もせず、マイペースな性格なのに猫駅長や猫店長という人気者になる。自分のアイコンにペツトの写真を使っている人も多いが、僕のラインのリストで数えてみたら、犬は2人、猫は14人だった。

昔からの慣用句で猫を扱った言い回しもとても多く、『猫の目』『泥棒猫』『猫ばば』『猫かぶり』『猫だまし』『猫なで声』『猫に鰐節』『猫に小判』『猫もしゃくしも』など…犬の忠実さを語るものとは反対に自奔放さやズルさを表すものが目立つ。その上『猫は三年の恩を三日で忘れる』とか『猫を殺せば七代崇る』というのもあって、ネコが必ずしも可愛がられているだけではないことが判る。

しかし、人は案外そういう言つものに惹かれてしまうのである。男女の関係も似たようなモノでそこに様々な物語が生まれる。だから人生は面白い。



根を張る

独り暮らしの生活で一番面倒に思うのは庭木の管理である。庭がジャングル状態にならないようにと夏と冬に根性込めて一気に伐採をする。

今年は気のせいか草木の成長ペースが早いようにも感じる。家内が生前に大きな植木鉢に植えた花の残りもあるが世話をするのが面倒で、廃棄したり庭の隅にかためたりしているのだが、中に一つ大きな鉢のものがある。コレがどうしても動かない。そこからはみ出した根が地面に大きく根を張ってびくともしないのである。

自然の生命力を見せつけられると同時に、あらためて定期的なメンテナンスの大切さも教えられる。

若い頃から『流れる水は腐らない』をモットーにして、常に動きを止めないこと、変化を続けることをモットーにしてきた私だが73歳になってややペースが落ちてきた感がある。

あらためてボブ・ディランの歌を自分に投げかける。

Like a Rolling Stone





油 断

『ノアの方舟』の話を初めて聞いたのは小学4年生の頃、毎週日曜日に通っていたプロテスタント系の日曜学校のことだ。地域に教会の建物は無かったが、若い宣教師が地域の集会所で子どもたちに毎週、聖書の1節を話して聞かせてくれていた。1年続けて通ったら牧師からメッセージ入りの分厚い聖書をもらう事ができた。プレゼントされた聖書を読みながら、大切な言葉は暗記したものだった。今も手元にあるその聖書にはその時引いた赤線をいくつも見つける事ができる。

そんな中、たくさんの教えや戒律についての話よりノアの方舟についての記述は衝撃的だった。廢退した世の中をリセットしてしまおうと決断された神の想いと選ばれて生き残ったノアファミリーの話は、後に見る70ミリ大作映画『十戒』で復習したものである。バーチャル世界では自分にとって不都合なものは簡単にリセットする事ができる。しかし、現実の世界はそうはいかない。

ノアの方舟はあっという間にタイタニックになってしまう危険性をはらんでいる。



F-30号

無の境地で

20代の若い頃に職場の温泉旅行で雪の永平寺に立ち寄ったことがある。

その頃は仏教や寺院には全く興味も無くて、ただガイドさんに案内されるまま、寒さに震えながら広間に正座して僧侶からの話を聞いた。

当時はタイトなジーンズを好んで穿いていた、正座するのが難しく、ゴソゴソしていたらきつく注意された。

心の中で「なんでこの雪の中、暖房もないこんな所に来なあかんねん」と思ったの覚えている。

当然の事だが『座禅体験』は辞退した。

以来、座禅をするという機会は全く無く、進んでそういう場所に赴くこともなかった。

70歳を過ぎて独り暮らしの自由気ままな生活になってから、たまに一度座禅でも組んで頭の中を空っぽにしてみる というのも大切なと思う事もあるが、まだまだ無理なようだ。

考える事、やっておきたい事、知りたい事が頭の中に次々湧いてくる。

先日、MRI検査を受ける事があったが、45分程を何もせずに横たわっているのがもったいなくて、機械の中に入って目を閉じながら 漫画のアイデアを考えていた。

結果的に新しいアイデアが3つほど浮かんだのだが、やはりその充実感の方が優先している。

そんな訳で、なかなか座禅を組むにふさわしい心境には程遠い。



何を招く…